

理科

における深い学びに到達した児童像

- 協働的な活動を通して、自分の考え方を整理している。
- 実験結果などの情報を見極めて、再構築する。
- 根拠を基に自分でまとめ（結果の考察）を表現することができる。

児童像の実現のために効果的だった手だて

タブレット活用による、実験結果の共有
多面的・多角的に捉えさせるためのタブレット活用
既習を生かした板書・単元構成の工夫
観察実験アシスタントとの連携によるスムーズな実験

実践の成果(○)と課題(▲)

- グラフを用いて予想を立てさせたことで、言葉で予想を書くことが難しい児童でも、予想を立てることができた。
- 観察・実験アシスタントとの連携により、準備や児童の実験中の動きがスムーズにできた。
- ムーブノートのスタンプ集計機能を使って、各班の実験結果を共有したことで、共通点や差異点に気付かせることができた。協働して解決する姿が見られた。
- タブレット活用により、友達の考えも共有でき、より多面的・多角的に考えることができた。
- ▲今回、実験①食塩（40℃・60℃）、実験②ミョウバン（40℃・60℃）に分けて実験したが、想定より時間がかかった。実験①40℃（食塩・ミョウバン）、実験②60℃（食塩・ミョウバン）のように温度で分けて実験することで時間短縮になる。